

滋賀県手話言語条例を考える
「手話は言語」
その理解と普及のために

社会福祉法人 全国手話研修センター
日本手話研究所
高田英一

国連の誕生

- 誕生 1946年(第2次世界大戦後)
- 目的 人権平等を基礎として平和を守る
- 加盟国 2019年現在 196カ国(日本含む)
- 国レベルでバチカン市国など未加盟

国連憲章

•第1条

•「人種、性、皮膚の色、**言語**、宗教、政治的意見、社会的出身、財産、出生、地位によるいかなる差別もなしに行使する権利がある」

国際人権規約

- 社会権規約 (A規約)
- 自由権規約 (B規約)

- 人種、性、皮膚の色、言語(音声語)、宗教、政治的意見、社会的出身、財産、出生、地位によるいかなる差別もなしに行使する権利がある

「障害者権利条約」

- 2006. 12. 3 第61回国連総会採択
- 2007. 10. 29 日本政府署名
- 2014. 1. 20 批准書寄託

•第2条 定義

•「言語」とは、音声言語及び手話その他の形態の非音声言語をいう。

障害者基本法

(地域社会における共生等)

第三条

三 全て障害者は、可能な限り、

言語(手話を含む)その他の意思疎通のための手段についての選択の機会が確保されるとともに、情報の取得又は利用のための手段についての選択の機会の拡大が図られること。

大切な出来事

- 「障害者権利条約」(国連) 第2条
- 「障害者基本法」(日本) 第3条
- 定義＝手話は**言語**である
- 言語観の**大転換**

言語観の大転換とは？

- **これまでの**言語観
- 言語 = 音声言語 (音声語) → 音声

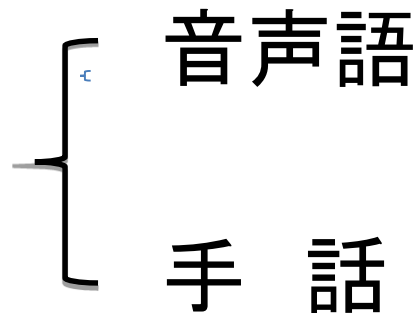
- **新しい**言語観

-

-

- 言語

-



言語の平等原則

•1. 法的平等

- 国連憲章、人権条約など
- 「人種、性、皮膚の色、言語、宗教、政治的意見、社会的出身、財産、出生、地位によるいかなる差別もなしに行使する権利がある」と規定

•2. 実質的・自然的平等

- 言語は生まれた環境によって、自然的に、生得的に獲得、自ら選択できず、上下はつけられない

言語(音声語)の条件

- 音声語の分節構造
 - 1. 音節(50音～115音)
 - 2. 単語
 - 3. 文
- 必要に応じ無限の語彙を保障

言語(手話)の条件

- W・ストーキー、手話分節構造発見(1960年)
- 現在は言語学者の大勢は手話は言語と認識
- 手話の**分節構造**
 - 1. 手の形
 - 2. 手の位置
 - 3. 手の動き
- 必要に応じ**無限の語彙**を保障

手話と音声語の歴史

- 1. 歴史の**新しい**手話
- 2. 歴史の**古い**音声語
- 3. 未来の**国際**言語
- シムコム(サイマルテニアス・コミュニケーション
＝同時法コミュニケーション)

「おいで」



「さよなら」



「お願い」



「お辞儀」



「は」



明治以前の ろう者と健聴者のコミュニケーション

- あっち行け
- こっちに來い
- ちょうだい
- だめ！いけなない！
- ないよ
- お腹へった
- 臭い！
- バカ、アホ、ツンボ

明治以前のろう者

- 「ろうコミュニティ」
 -
 - 手話
- } なかった！
- ろう者にはろう者以外、友達も仲間もいない
 - 仲間以外コミュニケーションできない生活
 - 職業→下働き、手伝い、飼殺し、無職、乞食
 - 社会ののけ者→つんぼ、おし、ごろ
 - 悲惨な生活

身振りが手話へ 発展するための条件

- 集合離散するろう者には手話は形成できない
- 1. ろう者コミュニティ
 - 継続的持続性のある集団の形成
 - ろう学校卒業生からろう者コミュニティへ
 - 自立化 組織結成→社会参加の運動
- 2. 手話の発展

日本のろう教育

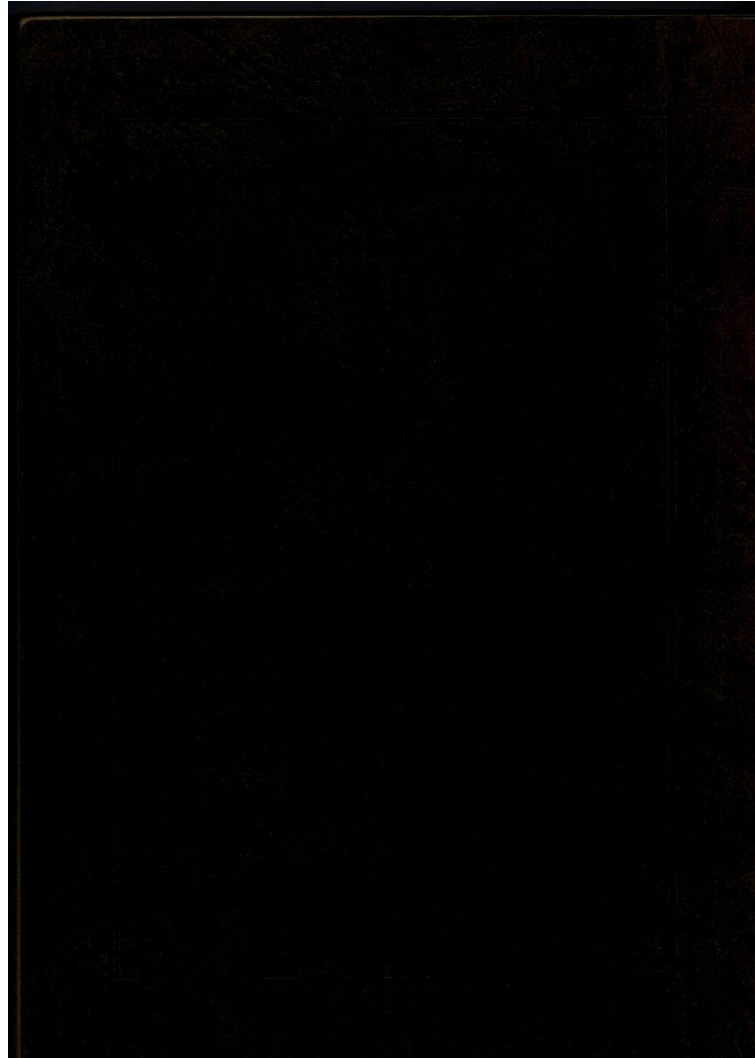
- 1878(明治11)年5月23日
- 日本最初のろう学校・京都盲啞院(現・京都府立ろう学校)創設

- その功労者・古河太四郎初代校長
- その理念
- 1. ろう者も人間である
- 2. 教育によって人間となる



古河太四郎先生像





明治時代のろう学校教科書



 <p>木</p>	 <p>衣</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------

 <p>獸</p>	 <p>食</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------

 <p>鳥</p>	 <p>時</p> <p>抽象</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

 <p>魚</p>	 <p>草</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------

抽象的な言葉

- 方角
- **東** → 日の山より出る方向を示す
- 「手にて空に山の形を作り、その辺より日のだんだんと昇るに形どる」
- **西** → 「まず山の形を作り、日の頂上より没するに形どる」
- **角(かど)** → 箱または角柱をもって四角なるを示し、角とは面にあらず、隅を角という

文字についての問題？

• 手話に文字はあるか？

• ① ない

• ② ある

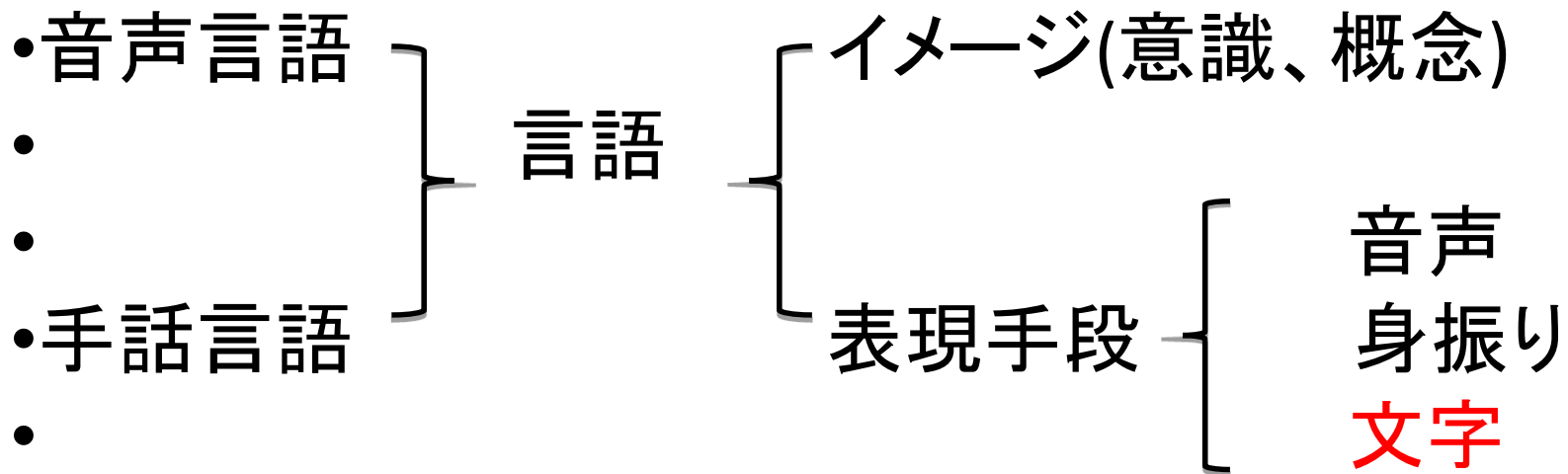
•

手話文字とは？

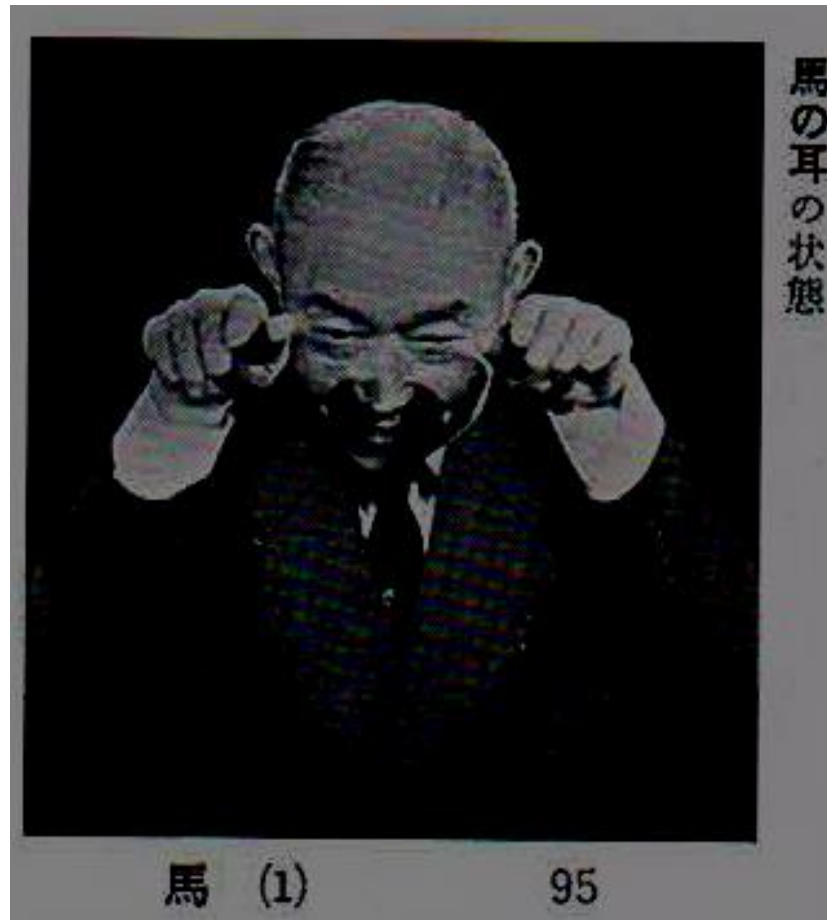
- 1. 最初に身振り
 - 2. 身振りに日本語単語を対応→手勢(しかた)
 - 3. 手勢を「イラスト」→共通語彙の普及
 - 4. 「イラスト」が文字の役割→語彙の増強
-
- 文字のイメージ
 - 日本語→かな、カタカナ、漢字
 - 英語→アルファベット

言語と文字の関係

- ① 文字は記憶強化の道具
- ② 文字は語彙の蓄積と社会化に不可欠



手話〈馬〉・写真

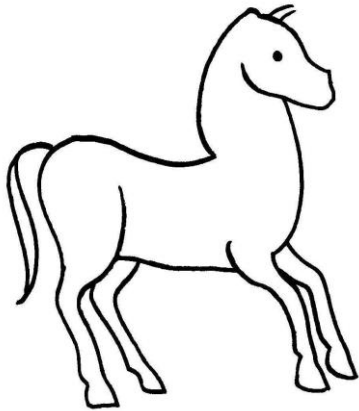


手話〈馬〉. 手話文字 = イラスト



表意文字・ **表音(表語)文字**・ 表手(手話)文字

ヒエログリフ「馬」画ともか



馬
うま
ウマ



〈馬〉

両手のひらを側頭部に当てながら同時に前後させる。

文字の歴史

- 表意文字(ヒエログリフ・絵文字) → 5千年前
- 表音文字 → 3千3百年前
- 手話文字 → 140年前
- (日本・ろう学校創立時点)

歴史的な3種の文字の異なる特徴

- 1. **表意文字**(ヒエログリフ)
 - 意味が分かる、音声と身振りは脳に記憶
- 2. **表音文字 表語文字(漢字)**
 - 音節が分かる、意味と身振りは脳に記憶
- 3. **表手文字**(手話「イラスト」)
 - 身振りが分かる、音声と意味は脳に記憶

現代のヒエログリフ 「PIC(ピクトグラム)」

									
通行止め	車両通行止め	車両進入禁止	二輪の自動車以外の自動車通行止め	大型貨物自動車等通行止め	特定の最大積載以上の貨物自動車等通行止め	大型乗用自動車通行止め	二輪の自動車原動機付自転車通行止め	自動車以外の軽車両通行止め	自転車通行止め
									
車両(組合せ)通行止め	指定方向外進行禁止	指定方向外進行禁止	指定方向外進行禁止	指定方向外進行禁止	指定方向外進行禁止	指定方向外進行禁止	車両横断禁止	転回禁止	追い越しのための右側はみ出し通行禁止
									
追い越し禁止	駐停車禁止	駐車禁止	駐車余地	時間制限駐車区間	危険物積載車両通行止め	重量制限	高さ制限	最大幅	最高速度

ろう(言語)教育の変遷

- 手勢法教育
- 明治時代初期～大正末期
- 口話教育
- 大正末期～昭和35年代
- 補聴器教育
- 昭和35年代～平成10年代
- 人工内耳教育
- 平成10年代～現在 → 手話尊重へ

絶えず差別される手話 1

- ろう教育は言語＝音声言語唯一論へ傾斜
- 口話教育、純粹口話法とは？
- 音声語のみを奨励
- 発音、読話重視、手話排斥
- 教師の優位を利用した社会的宣伝
- 上級生と下級生の隔離

絶えず**差別**される手話 2

- 補聴器教育とは？
- 幼稚部から集団補聴器教育
- 聴音、発音の重視
- 音声語のみを奨励、手話排斥
- 上級生と下級生の隔離→普通校進学
- 教師の勲章**→普通校進学生数の数
- Uターン→ろう学校生徒の数→ひょうたん型

絶えず**差別**される手話 3

- 人工内耳教育とは？
- 教育は教師から医者へ
- 幼稚部から人工内耳教育
- 人工内耳装着児の選別
- 普通校進学奨励
- 医師の勲章**→普通校進学児の数
- Uターン→ろう学校生徒の数→ひょうたん型

人工内耳の問題点

- 対象の変遷→難聴者から難聴児へ
- 人体侵襲手術の恐怖、限定的な効果
- 低年齢から0歳児へ
- 片耳装着から両耳装着へ
- 耳鼻咽喉科医師会との合意→手話認識
- 一部偏向医師の暴走→健聴者になれる
- 聴力、新型出現、出費の継続、高齢化

手話はセーフティネット

- 限定的な人工内耳など機器の効果
- 聴力補償を講じても手話は必要・安全
- 言語の多様性を保存
- 高齡化社会に伴う聴力低下
- 高齡者による引きこもり
- 手話サークルへの参加は将来性の保障
- 国際語への道

言語平等の課題 音声語の差別

- 国連憲章、人権規約(A、B共)など
- 人種、性、皮膚の色、宗教などと共に**言語平等**を保障
- しかし、国連は現実には音声語を差別している
- **国連公用語**
- 英語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、アラビア語の6カ国語に限定
- 公用語国以外の言語を**差別**し、公用語国以外の国の**不利**を招いている！

言語とコミュニケーション

- ろう者の言語は日本手話
- 手話の保存、普及、教育活用は言語問題
- 聴覚障害者のコミュニケーション手段

- 健聴者、障害者一般の言語は日本語
- 日本語には言語問題はない
- 障害者の問題は多様なコミュニケーション手段

個別な必要な条例

- **手話言語条例**
- 手話の保存、普及、教育活用の保障
- **ろうコミュニティ**の維持発展(権利条約第24条教育)
- **聴覚障害者**がメイン

- **情報・コミュニケーション条例**
- 日本語と手話などの情報・コミュニケーション保障
- コミュニケーション手段の多様化を保障
- **すべての障害者**が対象

終わり

ご清視、ご清聴

有り難うございました。